駒林小学校便り

令和5年度
2月号
1月31日発行

背中を押せるように

副校長　村上　尚子

旧暦では“和風月名”と呼ばれる月の呼び名で、2月は「如月（きさらぎ）」と呼ばれています。その由来を調べてみたところ、「まだ寒さが残っている頃ゆえ、衣を重ね着する（衣更着：きさらぎ）　月」とのことです。この呼び名の通り、本格的な冬の寒さが到来し、着こんで暖をとる、そんな季節となりました。

毎年思うのですが、冬休みが明けてから3月まで、あっという間に過ぎてしまいます。『一月往ぬる（行く）二月逃げる　三月去る』―まさにこの言葉通りだと感じます。そして学校はまとめの時期になります。学習面、生活面を中心に、学年や学級の目標、自分自身の目標を再確認し、残りの日数で足りないところを補い、達成したことが身についているかを確認します。6年生は小学校生活の集大成となるこの時期です。「卒業まであと〇日」という言葉、また1～5年生にとっても一つ上の学年に「4月からは〇年生！」そんな言葉が教室でも、学年のフロアでも、友だち同士の会話でも意識される頃となります。きっと子どもたち自身、寂しいような、でも楽しみなような、不安なような、でも期待で胸がわくわくしているような…そんな気持ちが膨らんだり入り混じったりする時期でもあると感じます。

私自身の話になりますが、担任時代、この時期になると、受け持っている子どもたちにたくさんの曲を紹介していました。進級や卒業に向けて、この時期はそれまでの10か月間とは少し違う感覚や気持ちが芽生え、落ち着かない日もあります。でもこの残り少ない日々を、担任として悔いなく大切にして過ごしてほしいという願いから、子どもたちに伝えたい思いを素敵な言葉で、そしてできれば子どもたち自身がそこから新たな答えを見出す、または励まされる、力をもらえる、そんな曲を選んで紹介しました。ジャンルは様々ですが、その時々で子どもたちに合わせて曲を選び、子どもたちと一緒に歌詞を音読したり、学級活動の中で歌ったり、その歌詞の内容について自分やクラスに置き換えて考えたりしました。この活動を通して、皆が抱えている各々の気持ちを共有することができ、また、曲が次のステージに向かう子どもたち自身の背中を押してくれて、最終日までその子どもたちらしく過ごせたように感じています。

今は担任ではありませんが、この駒林小学校の子どもたち皆の幸せと輝かしい未来を心から願っております。これからの時代を担う子どもたちの背中を優しく押してあげられるような、そんな声掛けや支援を今後も続けていきたいと思います。今年度の最後の日まで、一日一日を大切に、努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

（当時紹介した曲の一節です）

『瞳閉じれば　まぶたに広がる　今日まで過ごした　これまでの物語
　見慣れた顔と　聞き慣れた声と　カバンに詰め込み　歩き始めた
窓に流れる　遠ざかる僕の街　行先はただ前だけ　行こう
　今日から始まる物語　どんな話も　描くのはココ次第
さあ行こう　何処までも　そう決めたこと　忘れないように
　拝啓　昨日までの自分へ　　僕は　君の途中』

（GReeeeN「始まりの唄」）